

II 事業報告

ここでは、感染症情報センターが行った事業のうち、集計に通常年単位を用い報告を行う事業及び年度集計ではあるが、年度内に報告書をまとめ関係機関へ配布し、年度内に集計が完結した事業について紹介する。

1 感染症発生動向調査

埼玉県では、感染症法に基づき、感染症に関する情報の収集及び公表を目的とした感染症サーベイランスを感染症発生動向調査事業として実施している。本事業は、その実施要綱に基づき、地方自治体及び医師等医療関係者の協力と国との連携により事業体制が構築されている。当センターは、県内に設置されている政令指定都市及び保健所設置市の協力のもと、基幹情報センターとして県内の感染症情報の収集及び公表を行っている(図 II-1-1)。

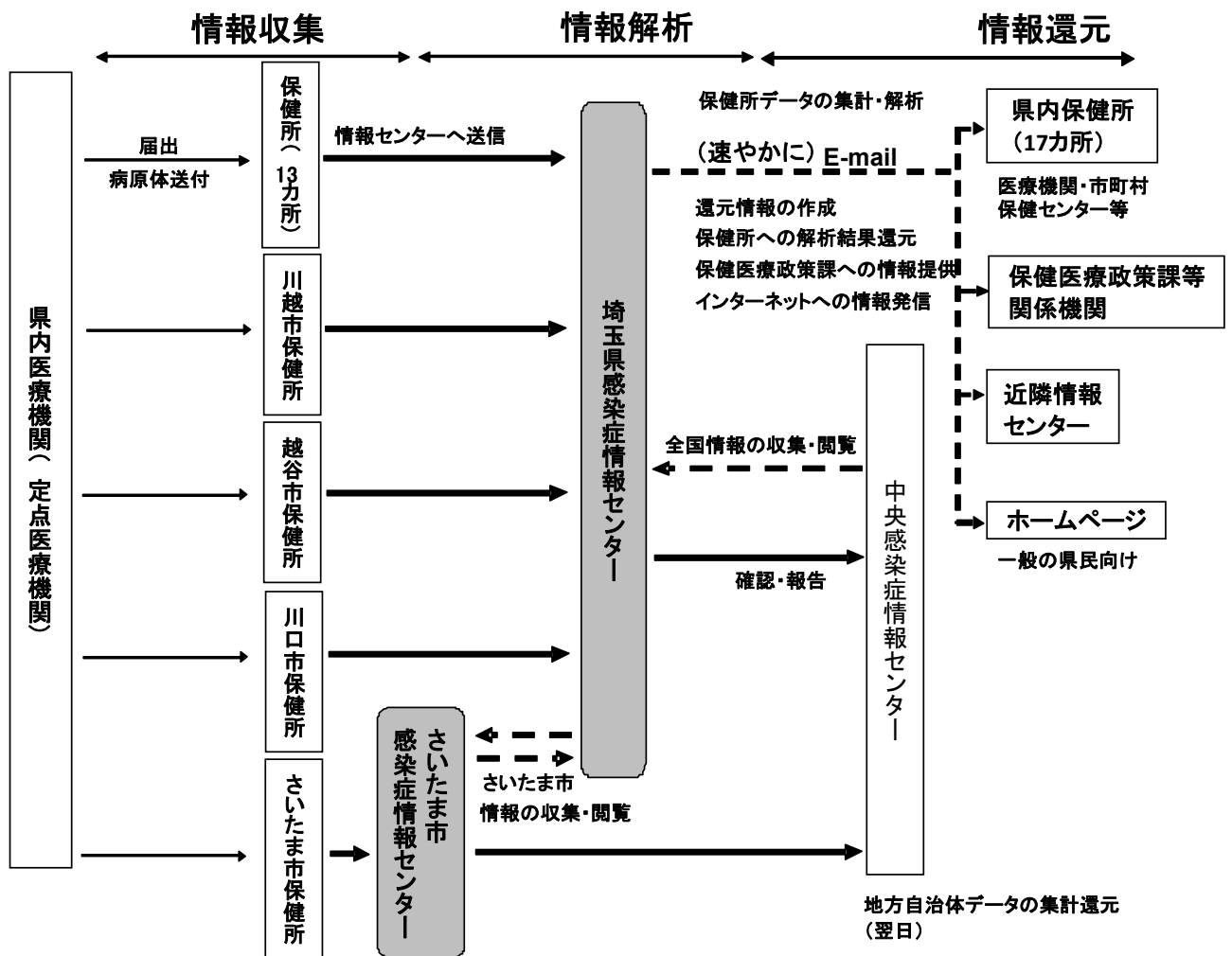


図 II-1-1 感染症発生動向調査による情報(患者・病原体)の流れ

2018年の発生動向調査では、調査期間中に省令の改正に伴う患者発生動向調査対象疾患の追加等の変更が行われた。追加された疾患は急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)で、2018年3月14日に公布された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令(平成30年厚生労働省令第22号)」により五類感染症(全数把握疾患)として報告されることになった。これはポリオ対策の観点から、急性弛緩性麻痺を発症した15歳未満の患者に対してポリオウイルス検査が確実に実施されることを担保するためである。この変更は2018年5月1日から施行された。また、2017年12月15日に公布された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令(平成29年厚生労働省令第131号)」に基づき、風しんについては医師が患者の氏名、住所等を直ちに届け出なければならない法第12条第1項第1号に規定する厚生労働省令で定める五類感染症となった。指定医療機関から定点把握対象疾患として届け出られていた百日咳については、法第12条第1項第2号に規定する厚生労働省令で定める五類感染症(全数把握疾患)となった。これらの変更は2018年1月1日から施行された。

また、2018年4月1日から川口市が中核市へ移行したため、従来の川口保健所の管轄区域は、南部保健所と川口市保健所に分かれた。それに伴い、定点把握疾患を届け出る指定届出機関はインフルエンザ定点2施設、小児科定点1施設、基幹定点1施設が新たに指定された。

本報告では、全数把握疾患は診断日が2018年1月1日から2018年12月31日に属する届出を、定点把握疾患のうち、週単位報告疾患は2018年第1週(2018年1月1日～7日)から52週(2018年12月24日～30日)まで、月単位報告疾患は2018年1月から12月までの報告を集計し県内の動向をまとめた。また、全数把握疾患の病原体については、2018年1月1日から12月31日に県内の医療機関、衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で採取された検査成績をまとめた。定点把握疾患の病原体については、同期間に病原体定点で採取され衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。なお、本報告に用いたデータは、2019年2月に感染症発生動向調査システムから収集した。

(1) 患者情報

a. 全数把握対象疾患

全数把握対象疾患は、一類から四類感染症及び新型インフルエンザ等感染症は診断後直ちに、五類感染症(侵襲性髄膜炎菌感染症、風しん及び麻しんは診断後直ちに届出)は7日以内に診断した医師から届出られる疾患である。

(a) 一類・二類感染症

一類感染症は、患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者が届出の対象となるが、2018年は疑似症を含め届出はなかった(表Ⅱ-1-1)。

二類感染症は、結核 1,165 例の届出があり、その他の二類感染症の届出はなかった(表Ⅱ-1-1)。

表Ⅱ-1-1 一類・二類・三類感染症 届出数

	疾患名	埼玉県		
		2018年	2017年	2016年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	1,165	1,301	1,385
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	中東呼吸器症候群	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0	0
三類	コレラ	1	0	0
	細菌性赤痢	31	7	11
	腸管出血性大腸菌感染症	279	246	174*
	腸チフス	1	3	2
	パラチフス	2	0	0

**Escherichia albertii* 感染症の1例を含む

結核は、前年の 1,301 例と比べ大きく減少した。類型別では、患者 765 例、無症状病原体保有者(潜在性結核感染症)390 例、疑似症 10 例であった。男性では、患者が 490 人、無症状病原体保有者が 216 人、疑似症患者が 6 人で、女性では、患者が 275 人、無症状病原体保有者が 174 人、疑似症患者が 4 人であった。年齢階級別では、男性は 60 歳以上が 52.0% を占め、70 歳代が最も多く、女性は 60 歳以上が 53.0% を占め、80 歳代が最も多かった。また、男性患者の 60 歳以上が占める割合は 59.8%、女性患者では 64.4% であった(表Ⅱ-1-2)。

表Ⅱ-1-2 結核性年齢階級別類型別届出数(2018年)

年齢階級	男性				女性				総数
	患者	無症状病原体保有者	疑似症患者*	小計	患者	無症状病原体保有者	疑似症患者*	小計	
10歳未満	-	19	1	20	-	10	-	10	30
10歳代	7	8	-	15	2	5	-	7	22
20歳代	34	27	-	61	30	28	-	58	119
30歳代	29	31	-	60	18	21	-	39	99
40歳代	65	27	-	92	22	29	-	51	143
50歳代	62	31	1	94	26	22	-	48	142
60歳代	56	33	1	90	21	21	-	42	132
70歳代	110	32	3	145	51	23	1	75	220
80歳代	100	8	-	108	69	14	3	86	194
90歳以上	27	-	-	27	36	1	-	37	64
合計	490	216	6	712	275	174	4	453	1165
割合	42.1%	18.5%	0.5%	61.1%	23.6%	14.9%	0.3%	38.9%	100.0%

* 感染症死亡疑いの死体4例を含む

(-0)

(b) 三類感染症

三類感染症は、コレラ 1 人、細菌性赤痢 31 人、腸管出血性大腸菌感染症 279 人、腸チフス 1 人、パラチフス 2 人であった(表Ⅱ-1-1)。

コレラは、1月に70歳代の男性1人の届出があった。血清型はO1で、推定感染地域は国内であった。

細菌性赤痢は、男性22人、女性9人の計31人の届出があり、前年の7人より大きく増加した。症例の年齢は10歳代から80歳代に分布した。類型別では、患者18人、無症状病原体保有者13人であった。いずれも診断方法は分離・同定による病原体の検出であり、血清型はsonnei(D群)の検出が24人、flexneri(B群)の検出が6人、boydii(C群)の検出が1人であった。推定感染地域は国外が29人[インドネシア12人、アメリカ(ハワイ)8人、フィリピン2人、モロッコ2人、ミャンマー1人、インド1人、イタリア1人、ブラジル又はペルー1人、マレーシア又はベトナム1人]、国内が2人であった。海外での集団感染者や海外からの技能実習生からの赤痢菌の検出が確認された。

腸管出血性大腸菌感染症は、男性127人、女性152人の計279人の届出があった。前年に引き続き増加し、感染症法が施行された1999年以降、最も多い届出となった。症例の年齢は0歳から90歳代に分布した。10歳未満が最も多く前年と同数の69人であったが、10歳以上の階級では、20歳代及び60歳代を除く階級で前年の届出数を上回った。類型別では、患者183人、無症状病原体保有者96人で、患者が全体の65.6%を占め、前年の63.0%と比べ増加した。O血清型は、O157が175人と最も多く、次いで多かったのはO26の59人で、O157とO26の全体に占める割合はそれぞれ62.7%と21.1%であった。O157の検出が特に多かった年代は

10歳未満及び20歳代で、O26の検出は10歳未満であった。その他の血清型はO121が16人、O111が9人、O103が4人、O145が3人、O91、O113が各2人、O8、O15、O84、O128、O181が各1人で、その他に型別不能(OUT)が3人、O血清型不明が1人であった。届出は8月が最も多く、6月～9月の届出数は219人で全体の78.5%を占めた。溶血性尿毒症症候群(HUS)患者は、男性1人、女性4人の計5人の発症が確認され、前年の6人を下回った。患者の年齢は10歳未満及び10歳代が各2人、60歳代が1人であった。検出された大腸菌のO血清型はO157が3人、O26及びO103が各1人であった(表Ⅱ-1-3)。

表Ⅱ-1-3 溶血性尿毒症症候群患者(2018年)

診断日	性別	年齢	血清型(O:H) 毒素型
5/9	女	10歳代	O157:H7 VT1VT2
7/13	男	10歳未満	O157:H7 VT1VT2
8/5	女	10歳代	O26:H11 VT2
8/31	女	10歳未満	O103:H2 VT2
12/4	女	60歳代	O157:H7 VT1VT2

腸チフスは、1月に10歳未満の女性1人の届出があり、前年の3人を下回った。類型は患者で、診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域はパキスタンであった。

パラチフスは、7月に10歳未満の女性1人及び50歳代の男性1人の計2人の届出があった。いずれも類型は患者で、診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域は、前者がバングラデシュ、後者がタイ、ミャンマー又はカンボディアであった。

(c) 四類感染症

四類感染症は、E型肝炎29人、A型肝炎41人、オウム病1人、チクングニア熱1人、つつが虫病4人、デング熱2人、マラリア7人、レジオネラ症100人の計185人であった(表Ⅱ-1-4)。

表Ⅱ-1-4 四類感染症 届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	2018年	2017年	2016年		2018年	2017年	2016年
E型肝炎	29	19	15	東部ウマ脳炎	0	0	0
ウエストナイル熱	0	0	0	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	0	0	0
A型肝炎	41	12	6	ニパウイルス感染症	0	0	0
エキノкокクス症	0	0	0	日本紅斑熱	0	0	0
黄熱	0	0	0	日本脳炎	0	0	0
オウム病	1	0	0	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
オムスク出血熱	0	0	0	Bウイルス病	0	0	0
回帰熱	0	0	0	鼻疽	0	0	0
キャサナル森林病	0	0	0	ブルセラ症	0	1	0
Q熱	0	0	0	ペネズエラウマ脳炎	0	0	0
狂犬病	0	0	0	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
コクシジオイデス症	0	0	0	発しんチフス	0	0	0
サル痘	0	0	0	ポツリヌス症	0	0	0
ジカウイルス感染症*	0	0	0	マラリア	7	1	0
重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	野兔病	0	0	0
腎症候性出血熱	0	0	0	ライム病	0	0	0
西部ウマ脳炎	0	0	0	リッサウイルス感染症	0	0	0
ダニ媒介性脳炎	0	0	0	リフトバレー熱	0	0	0
炭疽	0	0	0	類鼻疽	0	0	0
チクングニア熱	1	0	1	レジオネラ症	100	99	89
つつが虫病	4	2	1	レプトスピラ症	0	2	0
デング熱	2	12	13	ロッキー山紅斑熱	0	0	0

*2016年2月5日から四類感染症の届出対象疾患となった

E型肝炎は、男性22人、女性7人の計29人の届出があり、前年の19人より大きく増加した。症例の年齢は40歳代から80歳代に分布し、60歳代の14人が最も多かった。届出は年間を通してあり、患者間の関連性は認められなかった。類型は全て患者で、診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgA抗体の検出12人、血清IgA抗体の検出のみが16人、血清IgM抗体の検出のみが1人であった。推定感染経路は経口感染17人、輸血・血液製剤2人、不明10人で、推定感染地域は国内25人、国外1人、国内又は国外1人、不明2人であった。

A型肝炎は、男性38人、女性3人の計41人の届出があり、前年の12人より大きく増加した。性比(男/女)は12.7で、2013年～2017年の性比の平均値1.7(最小値0.7、最大値3.0)を大きく上回った。症例の年齢は10歳代から80歳代に分布し、20歳代の10人、40歳代の9人、30歳代及び50歳代の8人の順に多かった。届出の7割に相当する29人が5月から7月の間に届出された。診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgM抗体の検出が30人、血清IgM抗体の検出のみが11人であった。推定感染経路は経口感染が16人、性的接触が16人、経口感染あるいは性的接触が3人、不明が6人で、推定感染地域は国内が38人、不明が3人であった。また、ワクチン接種歴は有りが1人、無しが24人、不明が16人であった。

オウム病は、4月に男性40歳代1人の届出があった。診断方法は間接蛍光抗体法による血清抗体の検出で、推定感染経路はトリとの接触、推定感染地域は国内であった。

チクングニア熱は、8月に男性10歳代1人の届出があった。診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出で、推定感染地域はフィリピンであった。

つつが虫病は、1月に女性50歳代1人、5月に男性60歳代1人、11月に男性60歳代及び70歳代の各1人の計4人の届出があり、前年の2人を上回った。診断方法は間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清抗体の検出及びIgM抗体の検出が3人、分離・同定による病原体の検出、PCR法による病原体遺伝子の検出、間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清抗体の検出及びIgM抗体の検出が1人であった。いずれも推定感染地域は国内で、そのうち県内での感染が3人であった。

デング熱は、8月に男性50歳代1人、9月に男性20歳代1人の計2人の届出があり、前年の12人より大きく減少した。いずれも病型は、デング熱であった。診断方法は、前者がPCR法による病原体遺伝子の検出及びNS1抗原の検出、後者がNS1抗原の検出であった。推定感染地域は前者がバングラデシュ、後者がスリランカであった。

マラリアは、男性7人の届出があり、前年の1人より大きく増加した。症例の年齢は10歳代から60歳代に分布した。病型は熱帯熱が6人、その他(*Plasmodium knowlesi*)が1人であった。いずれも診断方法は血液検体の鏡検による病原体の検出で、推定感染地域はアフリカが6人、アジアが1人であった。

レジオネラ症は、男性85人、女性15人の計100人の届出があり、前年の99人と同等であった。症例の年齢は30歳代から100歳代に分布し、60歳代が最も多く、60歳以上が80人で全体の80.0%を占めた。病型別では肺炎型98人、ポンティアック熱型2人で、肺炎型が全体に占める割合は98.0%で、前年の99.0%と同等であった。

男性では60歳代が33人と最も多く、60歳以上が78.8%を占めた。女性では70歳代及び80歳以上が各5人、60歳代が3人で、60歳以上が86.7%を占めた。年間を通して届出はあったが、月別の届出数は6月の26人、10月の16人、7月の14人の順に多く、6月から10月で全体の69.0%を占める69人の届出があった。

診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が98人、分離・同定による病原体の検出が11人、PCR法またはLAMP

法による病原遺伝子の検出が 11 人であった(重複例有り)。推定感染地域は、国内 92 人、国外 2 人、不明 6 人で、国内感染例のうち県内は 74 人であった。

(d) 五類感染症

五類感染症は、アメーバ赤痢 44 人、ウイルス性肝炎(E 型・A 型を除く)10 人、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 94 人、急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)6 人、急性脳炎 37 人、クロイツフェルト・ヤコブ病 6 人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 30 人、後天性免疫不全症候群 31 人、ジアルジア症 2 人、侵襲性インフルエンザ菌感染症 23 人、侵襲性髄膜炎菌感染症 1 人、侵襲性肺炎球菌感染症 137 人、水痘(入院例)13 人、梅毒 234 人、播種性クリプトコックス症 3 人、破傷風 3 人、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 5 人、百日咳 719 人、風しん 190 人、麻しん 16 人、薬剤耐性アシネトバクター感染症 8 人の計 1,612 人であった(表 II-1-5)。

表 II-1-5 五類感染症 届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	2018年	2017年	2016年		2018年	2017年	2016年
アメーバ赤痢	44	53	44	侵襲性肺炎球菌感染症	137	130	108
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	10	11	7	水痘(入院例)	13	12	9
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	94	57	51	先天性風しん症候群	0	0	0
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)*	6	—	—	梅毒	234	234	193
急性脳炎	37	45	38	播種性クリプトコックス症	3	3	8
クリプトスポリジウム症	0	0	0	破傷風	3	2	4
クロイツフェルト・ヤコブ病	6	4	5	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	30	22	21	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	5	12	9
後天性免疫不全症候群	31	35	40	百日咳*	719	—	—
ジアルジア症	2	0	1	風しん	190	6	4
侵襲性インフルエンザ菌感染症	23	21	9	麻しん	16	5	8
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	2	2	薬剤耐性アシネトバクター感染症	8	8	7

*百日咳は2018年1月1日、急性弛緩性麻痺は2018年5月1日から五類感染症の届出対象疾患となった

アメーバ赤痢は男性 40 人、女性 4 人の計 44 人の届出があり、前年の 53 人より減少した。症例の年齢は 20 歳代から 80 歳代に分布し、50 歳代の 11 人、40 歳代の 10 人、60 歳代の 9 人の順に多かった。届出は年間を通して確認された。病型別では、腸管アメーバ症 40 人、腸管外アメーバ症 3 人、腸管及び腸管外アメーバ症 1 人であった。診断方法は、腸管アメーバ症で鏡検による病原体の検出 36 人、鏡検による病原体の検出に加え他の検査法が適用されていたものが 3 人、ELISA 法による病原体抗原の検出が 1 人であった。腸管外アメーバ症は、鏡検による病原体の検出が 2 人、PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清抗体の検出が 1 人、

腸管及び腸管外アメーバ症は鏡検による病原体の検出であった。推定感染経路は、経口感染 15 人、性的接触 11 人、不明 18 人で、性的接触の内訳は異性間性的接触 4 人、同性間性的接触 2 人、異性同性不明 5 人であった。推定感染地域は、国内 25 人、国外 3 人、不明 16 人であった。

ウイルス性肝炎(E 型・A 型を除く)は、B 型肝炎 8 人、C 型肝炎 2 人の計 10 人の届出があり、前年の 11 人を僅かに下回った。届出は年間を通して散発的に確認された。

B 型肝炎は男性 8 人で、症例の年齢は 20 歳代から 50 歳代に分布した。診断方法は、全て血清 IgM 抗体(HBc 抗体)の検出で、ウイルスの遺伝子型は A 型が 3 人、B 型及び C 型が各 1 人、不明が 3 人であった。推定感染経路は 3 人が性的接触で、その内訳は同性間性的接触 1 人、異性同性不明 2 人で、針等の鋭利なものの刺入による感染が 1 人、不明が 4 人であった。また、推定感染地域はいずれも国内であった。

C 型肝炎は、3 月に男性 30 歳代、12 月に男性 70 歳代の計 2 人の届出があった。診断方法は、前者がペア血清での HCV 抗体価の有意上昇、後者が血清での HCV 抗体陰性、かつ HCV RNA 又は HCV コア抗原の検出であった。推定感染経路及び地域は、前者が異性間性的接触で国内、後者はいずれも不明であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、男性 60 人、女性 34 人の計 94 人の届出があり、前年の 57 人より大きく増加した。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代まで幅広く分布したが、60 歳以上が 75 人で全体の 79.8%を占めた。症状は尿路感染症が 33 人、菌血症・敗血症が 22 人、肺炎が 18 人、胆嚢炎・胆管炎が 14 人、腸炎・腹膜炎が 7 人であった(重複例有り)。検査検体で多かったのは、尿の 27 検体、血液の 26 検体、喀痰の 14 検体であった。

分離された菌は *Enterobacter aerogenes* が 39 株、*Enterobacter cloacae* が 25 株、*Enterobacter amnigenus*、*Enterobacter asburiae*、*Enterobacter cancerogenus* が各 1 株で、*Enterobacter* 属が分離された患者は全体の 70.2%を占めた。他の細菌では *Klebsiella pneumoniae* が 11 株、*Klebsiella oxytoca* が 2 株、*Serratia marcescens* が 7 株、*Escherichia coli* が 5 株、*Citrobacter freundii* が 3 株、*Citrobacter koseri* が 1 株、*Hafnia alvei* が 1 株であった。また、2 症例からは複数の菌種が分離されていた。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)は、男性 4 人、女性 2 人の計 6 人の届出があった。症例の年齢は 10 歳未満に分布し、5 歳未満が 5 人で全体の 83.3%を占めた。いずれも病原体は特定されなかった。推定感

染経路は 2 人が飛沫・飛沫核感染、4 人が不明で、推定感染地域は全症例が国内であった。

急性脳炎は、男性 22 人、女性 15 人の計 37 人の届出があり、前年の 45 人より減少した。症例の年齢は 0 歳から 70 歳代に分布し、10 歳未満が 29 人で全体の 78.4%を占め、そのうち 0 歳が 6 人であった。届出は 9 月を除く月にあり、1 月、2 月及び 12 月に届出された 9 人からはインフルエンザウイルス、5 月の 2 人からはロタウイルスが検出された。この他では、5 人からヘルペスウイルス(EB ウイルス、サイトメガロウイルス、ヒトヘルペスウイルス 6、ヒトヘルペスウイルス 7)、3 人からエンテロウイルス(コクサッキーウイルス B4、コクサッキーウイルス B5、エコーウイルス 11)、1 人からマイコプラズマが検出された。病原体が特定されなかったのは 17 人であった。推定感染地域は、国内が 36 人、国外が 1 人であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)は、男性 3 人、女性 3 人の計 6 人の届出があり、前年の 4 人を上回った。症例の年齢は 40 歳代から 70 歳代に分布した。病型はいずれも古典型 CJD で、診断の確実度では、5 人がほぼ確実、1 人が疑いであった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、男性 16 人、女性 14 人の計 30 人の届出があり、前年の 23 人を上回った。症例の年齢は 30 歳代から 100 歳代に分布し、70 歳以上が 19 人で全体の 63.3%を占めた。届出は 1 月から 12 月の各月にあり、6 月の 6 人が最も多かった。診断方法は全症例が分離同定による病原体の検出で、血清群は A 群が 15 人、G 群が 10 人、B 群が 5 人であった。推定される感染経路は創傷感染が 16 人、飛沫感染及び接触感染が各 1 人、その他が 2 人、不明が 10 人で、推定感染地域は全て国内であった。

後天性免疫不全症候群は、男性 30 人、女性 1 人の計 31 人の届出があり、前年の 35 人を下回った。男性の症例は 20 歳代から 60 歳代に分布し、40 歳代の 12 人が最も多かった。病型は AIDS が 13 人で、その指標疾患はニューモシスティス肺炎が 7 人、カンジダ症(食道、気管、気管支、肺)及びカポジ肉腫が各 2 人、活動性結核(肺結核又は肺外結核)及び進行性多巣性白質脳症が各 1 人であった。また、その他(指標疾患を認めない患者)が 4 人、無症状病原体保有者が 13 人であった。推定される感染経路では性的接触が 25 人、不明が 5 人であった。性的接触の内訳は同性間性的接触が 15 人、異性間性的接触が 5 人、異性・同性間性的接触が 2 人、異性・同性不明性的接触が 3 人であった。女性の症例は、30 歳代の無症状病原体保有者で、推定感染経路は異性間性的接触であった(表 II -1-6)。

表Ⅱ-1-6 後天性免疫不全症候群性別内訳(2018年)

		男性 n=30		女性 n=1		
		届出数	割合	届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	-	0.0%	-	0.0%	
	10歳代	-	0.0%	-	0.0%	
	20歳代	5	16.7%	-	0.0%	
	30歳代	7	23.3%	1	100.0%	
	40歳代	12	40.0%	-	0.0%	
	50歳代	5	16.7%	-	0.0%	
	60歳代	1	3.3%	-	0.0%	
	70歳代	-	0.0%	-	0.0%	
	80歳以上	-	0.0%	-	0.0%	
病型	AIDS	13	43.3%	-	0.0%	
	その他	4	13.3%	-	0.0%	
	無症状病原体保有者	13	43.3%	1	100.0%	
推定感染地域	日本国内	20	66.7%	-	0.0%	
	その他(国外)	1	3.3%	1	100.0%	
	不明	9	30.0%	-	0.0%	
国籍	日本	26	86.7%	-	0.0%	
	その他	3	10.0%	1	100.0%	
	不明	1	3.3%	-	0.0%	
推定感染経路	性行為感染	異性間性的接触	5	16.7%	1	100.0%
		同性間性的接触	15	50.0%	-	0.0%
		異性・同性間性的接触	2	6.7%	-	0.0%
		異性・同性不明性的接触	3	10.0%	-	0.0%
	不明	5	16.7%	-	0.0%	

(届出数-:0)

ジアルジア症は、6月に男性40歳代、8月に男性20歳代の計2人の届出があった。いずれも、診断方法は鏡検による病原体の検出、推定感染経路は経口感染であった。推定感染地域は、前者が国内、後者がインドであった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、男性16人、女性7人の計23人の届出があり、前年の21人と同等であった。症例の年齢は5歳未満から90歳代に分布し、60歳以上が15人で全体の65.2%を占めた。小児では1-4歳及び5-9歳で各2人の報告があった。診断方法はいずれも血液からの分離同定による病原体の検出であった。ヒブワクチン接種歴は、有りが1-4歳の2人、無しが5人、不明が16人であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染が6人、不明が17人、推定感染地域は国内が21人、不明が2人であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症は、6月に女性40歳代1人の届出があり、前年の2人を下回った。診断方法は血液からの分離同定による病原体の検出及びPCR法による病原体遺伝子の検出で、血清群はC群であった。推定感染地域は国内であった。

侵襲性肺炎球菌感染症は、男性74人、女性63人の計137人の届出があり、前年の130人より増加した。症例の年齢は0歳から90歳代に分布

し、60歳以上が85人で全体の62.0%を占めた。小児では1-4歳の20人の他、0歳1人、5-9歳1人、10-14歳3人の報告があった。診断方法は、血液又は髄液からの分離同定による病原体の検出が135人、髄液からの病原体抗原の検出が14人、血液又は髄液からのPCR法による病原体遺伝子の検出が2人であった(重複例有り)。症状は発熱が116人(84.7%)、菌血症が109人(79.6%)、肺炎が56人(40.9%)、意識障害41人(29.9%)に認められた。ワクチン接種歴は、小児では有りが21人、無しが3人、不明が1人で、20歳以上では、有りが70歳以上の10人及び60歳代の1人の計11人、無しが47人、不明が54人であった。推定感染地域は国内が127人、不明が10人であった。

水痘(入院例)は、男性9人、女性4人の計13人の届出があり、前年の12人と同等であった。症例の年齢は0歳から50歳代に分布した。病型別では検査診断例が6例、臨床診断例が7例で、検査診断例の診断方法は、血清IgM抗体の検出が3人、分離同定による病原体の検出が2人、水疱内容液を検体としたイムノクロマト法による抗原の検出が1人であった。ワクチン接種歴は有りが2人、無しが7人、不明が4人で、感染原因として水痘あるいは帯状疱疹患者との関連が疑われた者が6人、不明が7人であった。推定感染地域は国内が11人、国内あるいは国外が1人、不明が1人であった。

梅毒は、男性151人、女性83人の計234人の届出があり、前年の234人と同数であった。性比(男/女)は1.82で、前年の1.85と同等であった。症例の年齢は、男女共に0歳から80歳代に分布し、男性では40歳代が最も多く、20歳代から50歳代が89.4%を占めた。女性では20歳代が最も多く、20歳代から40歳代が84.4%を占めた。病型は、男性では早期顕症梅毒(I期)が77人、早期顕症梅毒(II期)が35人、先天梅毒が1人、無症状病原体保有者が38人で、女性では早期顕症梅毒(I期)が16人、早期顕症梅毒(II期)が30人、晩期顕症梅毒及び先天梅毒が各1人、無症状病原体保有者が35人であった。推定感染経路は、男性では性行為感染が138人、母子感染(胎内)が1人、不明が12人、女性では性行為感染が72人、母子感染(胎内)が1人、不明が10人であった。性行為感染の内訳で異性間性的接触は男性が71.5%、女性が73.5%を占めた(表II-1-7)。また、推定感染地域は国内が208人、国外が4人、不明が22人であった。

表Ⅱ-1-7 梅毒性別内訳(2018年)

		男性 n=151		女性 n=83		
		届出数	割合	届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	1	0.7%	1	1.2%	
	10歳代	1	0.7%	5	6.0%	
	20歳代	35	23.2%	36	43.4%	
	30歳代	28	18.5%	20	24.1%	
	40歳代	50	33.1%	14	16.9%	
	50歳代	22	14.6%	3	3.6%	
	60歳代	6	4.0%	-	0.0%	
	70歳代	7	4.6%	2	2.4%	
80歳以上	1	0.7%	2	2.4%		
病型	早期顕症梅毒(I期)	77	51.0%	16	19.3%	
	早期顕症梅毒(II期)	35	23.2%	30	36.1%	
	晩期顕症梅毒	-	0.0%	1	1.2%	
	先天梅毒	1	0.7%	1	1.2%	
	無症状病原体保有者	38	25.2%	35	42.2%	
推定感染経路	性行為感染	異性間性的接触	108	71.5%	61	73.5%
		同性間性的接触	15	9.9%	2	2.4%
		異性・同性間性的接触	-	0.0%	-	0.0%
		異性・同性不明性的接触	15	9.9%	9	10.8%
	性行為以外	母子感染	1	0.7%	1	1.2%
不明		12	7.9%	10	12.0%	

(-:0)

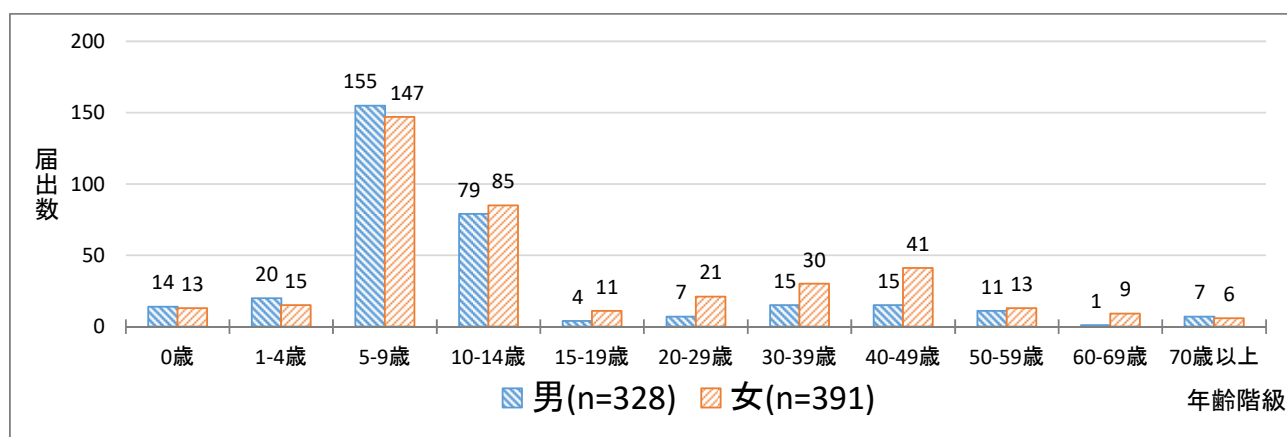
播種性クリプトコックス症は、1月に男性70歳代、6月に男性80歳代、11月に男性40歳代の計3人の届出があり、前年の3人と同数であった。診断方法は、全症例で髄液又は血液からのラテックス凝集法による莢膜抗原の検出が行われていたほか、分離・同定による病原体の検出が2人、病理組織学的診断が1人で行われていた。感染原因では、抗がん剤投与による免疫不全が1人、鳥類の糞などとの接触が1人、原因不明が1人であった。推定感染地域はいずれも国内であった。

破傷風は、5月に女性70歳代1人、6月に男性40歳代1人、12月に女性70歳代1人の計3人の届出があり、前年の2人を上回った。いずれも診断方法は臨床決定、推定感染経路は創傷感染、推定感染地域は国内であった。破傷風含有ワクチンの接種歴は、1人が有り、2人が不明であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は、男性3人、女性2人の計5人の届出があり、前年の12人より減少した。症例の年齢は60歳代から80歳代に分布した。診断方法は、全例が分離同定による腸球菌の検出で、MIC(Minimum inhibitory concentration)測定が行われていた。分離された腸球菌はいずれも *Enterococcus faecium* で、4人から耐性遺伝子 vanB が確認された。推定感染地域はいずれも国内であった。

百日咳は、男性328人、女性391人の計719人の届出があった。症例

の年齢は0歳から90歳代に分布し、階級別では5-9歳が302人、10-14歳が164人で、5歳から14歳が全体の64.8%を占めた。20歳以上は176人で全体の24.5%を占め、40歳代の56人が最も多かった。また、0歳は27人で3.8%であった(図Ⅱ-1-2)。月別の届出数は6月に50人を上回り、さらに9月には100人を超過した。診断方法は分離・同定による病原体の検出が7人、病原体遺伝子の検出が320人、単一血清で抗体価の高値が377人、ペア血清で抗体価の陽転又は有意上昇が5人であった(重複例有り)。また、検査所見を認めないが、検査確定例と接触が有りかつ臨床的特徴を有した者は17人であった。ワクチン接種歴は、有りが489人、無しが32人、不明が198人で、0歳では有り(3回目まで)8人、無し18人、不明1人あった。また、0歳の推定感染経路は、同胞からの感染が8人、父母等7人、同胞又は父母等が3人、不明が9人であった。推定感染地域は国内が619人、不明が100人であった。



図Ⅱ-1-2 百日咳性年齢階級別届出数(2018年)

風しんは、男性144人、女性46人の計190人の届出があり、前年の6人より大きく増加し、2013年以来の流行年となった。流行は8月から始まり、12月までの5か月間の届出数は182人であった。症例の年齢は5歳未満から70歳代に分布し、男性では40歳代の52人、30歳代の43人が多く、女性では20歳代の17人、30歳代の14人が多かった(図Ⅱ-1-3)。病型は検査診断例が183人、臨床診断例が7人であった。検査診断例の診断方法は血清IgM抗体の検出が106人、PCR法による病原体遺伝子の検出が92人、EIA法によるペア血清での抗体の検出が4人、分離・同定による病原体遺伝子の検出が1人であった(重複例有り)。ワクチン接種歴は、男性は有りが5人(3.5%)、無しが47人(32.6%)、不明が92人(63.9%)で、女性は有りが6人(13.0%)、無しが11人(23.9%)、不明が29人(63.0%)であった。接種歴有りの11人の接種回数は、2回が2人、1回

のみが 9 人であった。推定感染地域は国内が 145 人、国外が 1 人、不明が 44 人であった。

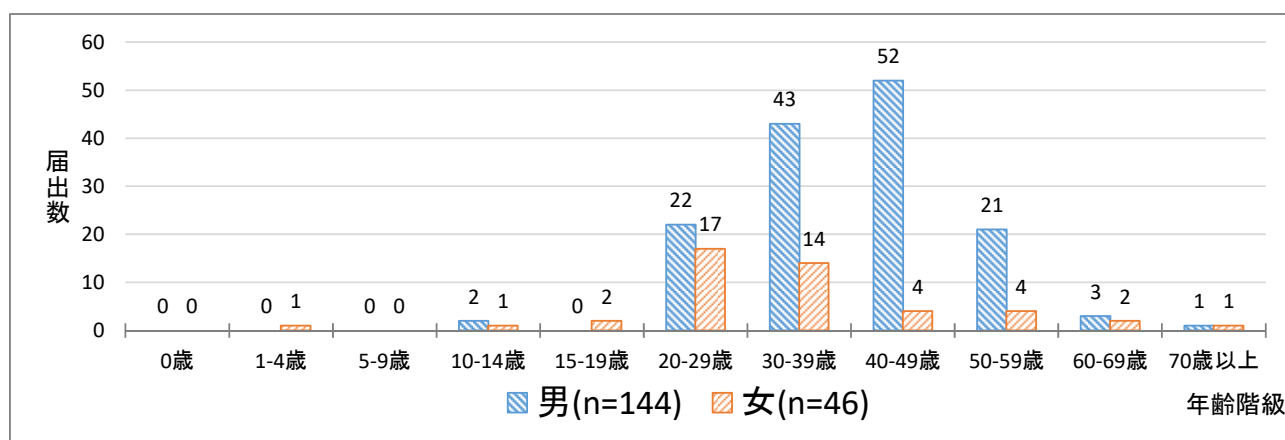


図 II -1-3 風しん性年齢階級別届出数(2018年)

麻しんは、男性 10 人、女性 6 人の計 16 人の届出があり、前年の 5 人より増加した。症例の年齢は 30 歳代が 8 人、40 歳代が 3 人、10 歳代及び 20 歳代が各 2 人、0 歳が 1 人であった。病型は麻しん(検査診断例)が 13 人、修飾麻しん(検査診断例)が 3 人で、診断方法は PCR 法による病原体遺伝子の検出が 10 人、PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgM 抗体の検出が 4 人、血清 IgM 抗体の検出及び EIA 法によるペア血清での抗体の検出が 1 人、血清 IgM 抗体の検出が 1 人であった。PCR 法により検出された遺伝子型は 14 人中 13 人が D8 であった。予防接種の接種歴は 1 回目、2 回目有りが 3 人、1 回目のみ有りが 2 人、無しが 4 人、不明が 7 人であった。推定感染経路では、4 人に海外渡航歴が認められ、5 人に国内での麻しん患者との接触があり、残りの 7 人は不明であった。

薬剤耐性アシネトバクター感染症は、男性 6 人、女性 2 人の計 8 人の届出があり、前年の 8 人と同数であった。症例の年齢は 40 歳代から 80 歳代に分布した。届出は 1 月から 2 月に 2 人、9 月から 12 月に 6 人の報告があった。診断方法は、喀痰からの分離・同定による病原体の検出が 3 人、髄液、血液、膿、創部組織及び喀痰・膿からの検出が各 1 人であった。90 日以内の海外渡航歴がなかったものが 7 人、不明が 1 人であった。

(e) 獣医師が届出を行う感染症

2018 年に獣医師が届出を行うエボラ出血熱(サル)、マールブルグ病(サル)、ペスト(プレーリードッグ)、重症急性呼吸器症候群(イタチアナグマ、タヌキ、ハクビシン)、結核(サル)、鳥インフルエンザ(H5N1 又は H7N9)(鳥

類)、細菌性赤痢(サル)、ウエストナイル熱(鳥類)、エキノコックス症(イヌ)、中東呼吸器症候群(ヒトコブラクダ)の届出はなかった。

b. 定点把握対象疾患

定点把握による感染症発生動向調査は、指定届出機関(定点医療機関)からの患者情報を収集解析し、情報還元を行っている。内科、小児科、眼科及び基幹定点週報分は、月曜日から日曜日までを1週間の単位として、性感染症及び基幹定点月報分は月単位で集計した。

なお、2018年の報告定点数は、週単位報告のインフルエンザ定点が13,270機関、小児科定点が8,407機関、眼科定点が2,096機関、基幹定点が559機関、月単位報告の性感染症定点が700機関、基幹定点が129機関であった。各定点区分別報告数と定点当たり報告数を表Ⅱ-1-8から表Ⅱ-1-12、性感染症の性年齢階級別報告数を表Ⅱ-1-13に示す。

(a) 週単位報告の感染症(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点報告)

インフルエンザの2017-2018年シーズンの流行期間は11月から3月で、1月には3週にわたり定点当たり報告数が60を超える大きな流行となった。2018-2019年シーズンは11月下旬に流行入りし、12月下旬には定点当たり報告数が10.00を超えた。

RSウイルス感染症の報告数は、7月以降緩やかに増加し、8月下旬から10月上旬にかけて多い状況が続いた。

咽頭結膜熱は、5月から7月にかけて例年並みの夏季流行と11月から12月にかけて例年より小さな冬季流行が観察された。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、例年同様の季節変動が観察され、4月から6月及び12月の二つの流行が観察された。流行期中の定点当たり報告数は前年と比べ高い水準で推移した。

感染性胃腸炎は、11月から12月の冬季流行は、小規模な流行年であった2014年、2015年及び2017年と同等であった。

水痘は、2018年の春から夏にかけての流行及び冬季流行はいずれも前年同様に小規模であったが、定点当たり報告数の最大値1.58は前年の0.80を上回った。

手足口病は、2014年及び2016年と同様に小規模な夏季流行が6月から観察された。流行は長期化し、報告数が多い状況は12月まで続いた。

伝染性紅斑の報告数は、5月以降緩やかに増加し始め、定点当たり報告

数の最大値 1.98 は、前流行期のピークと同等レベルに達した。

突発性発しんは、例年同様に年間を通して常に患者報告はあったが、長期的には緩やかな減少傾向が続いている。

ヘルパンギーナは、2013 年及び 2015 年と同等の夏季流行が 7 月から 9 月にかけて観察された。

流行性耳下腺炎は、2015 年から始まった流行が前年に終息し、年間を通して大きな変動は観察されなかった。

急性出血性結膜炎の報告は、4 月から 7 月上旬まで連続したほか、12 月に観察された定点当たり報告数の最大値 0.22 は、過去 5 年の最大値を上回った。

流行性角結膜炎の報告数は、5 月以降緩やかに増加し、7 月に観察された定点当たり報告数の最大値 3.12 は、過去 5 年の最大値を上回った。

細菌性髄膜炎の定点当たり報告患者総数は 0.84 で、前年の 1.40 と比べ減少した。患者の集積は認められなかった。

無菌性髄膜炎の定点当たり報告患者総数は 5.70 で、前年の 4.50 と比べ増加した。年間を通して断続的に報告が続いた。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告患者総数は 8.41 で、前年の 14.40 と比べ減少した。年間を通して、定点当たり報告数に大きな変動は観察されなかった。

クラミジア肺炎の定点当たり報告患者総数は 0.37 で、前年の 1.20 と比べ大きく減少した。

感染性胃腸炎(ロタウイルス)の定点当たり報告患者総数は 4.02 で、前年の 11.20 と比べ大きく減少した。定点当たり報告数は 4 月から 5 月にかけて多い状況が観察された。

インフルエンザ(入院患者)の定点当たり報告患者総数は 32.90 で、前年の 38.80 と比べ減少した。流行は内科・小児科定点報告のインフルエンザと同様の期間に観察された。

(b) 月単位報告の感染症(基幹定点、性感染症定点)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の定点当たり報告患者総数は 18.60 で、前年の 15.00 と比べ増加した。全国より低い水準ではあるが、年間を通して患者報告が認められた。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の定点当たり報告患者総数は 6.07 で、前年の 6.30 と同水準であった。

薬剤耐性緑膿菌感染症の定点当たり報告患者総数は 0.09 で、前年の 0.10 と同水準であった。

性器クラミジア感染症は、1,559 人の報告があり、前年の 1,561 人と同水準であった。年齢階級別では、男性で 20 歳～39 歳が 74.5%、女性で 20～34 歳が 69.9%を占め、男女比は 0.60:1 であった。

性器ヘルペスウイルス感染症は、454 人の報告があり、前年の 510 人と比べ僅かに減少した。年齢階級別では、男性で 20 歳～49 歳が 74.4%、女性で 20～49 歳が 73.9%を占め、男女比は 0.25:1 であった。

尖圭コンジローマは、263 人の報告があり、前年の 271 人と同水準であった。年齢階級別では、男性で 20 歳～49 歳が 74.4%、女性で 20～34 歳が 69.2%を占め、男女比は 0.80:1 であった。

淋菌感染症は、507 人の報告があり、前年の 499 人と同水準であった。年齢階級別では、男性で 20 歳～39 歳が 68.5%、女性で 15～34 歳が 72.4%を占め、男女比は 3.12:1 であった。

c. 感染症法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

2018 年埼玉県における摂氏 38 度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く)と発熱及び発しん又は水疱(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症及び五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く)の二つの症候群の届出はなかった。

表Ⅱ-1-8 定点把握対象疾患(インフルエンザ・小児科・眼科)
週単位報告患者数の推移(2018年)

年・週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
18・1	01/01	4,317	50	52	176	567	94	9	11	35	1	9	1	20
18・2	01/08	7,570	54	54	387	1,065	64	11	29	66	1	19	2	33
18・3	01/15	15,840	70	33	555	1,255	49	9	33	66	5	15	-	19
18・4	01/22	16,745	53	33	480	852	66	12	27	50	1	9	1	24
18・5	01/29	17,550	56	39	600	921	58	7	15	51	1	10	-	25
18・6	02/05	13,100	64	33	468	799	72	5	5	57	4	10	1	30
18・7	02/12	7,306	65	39	393	682	66	2	8	43	-	13	1	18
18・8	02/19	5,374	60	35	542	842	57	2	8	57	3	16	3	15
18・9	02/26	3,725	67	25	544	968	46	4	13	48	2	15	1	17
18・10	03/05	2,148	72	38	580	931	65	9	6	67	1	10	-	16
18・11	03/12	1,511	74	46	610	846	52	16	10	58	2	19	-	14
18・12	03/19	853	60	27	545	792	76	2	5	67	1	12	-	18
18・13	03/26	488	46	43	425	787	60	18	12	84	3	9	-	26
18・14	04/02	277	55	29	382	730	95	6	8	70	-	8	4	29
18・15	04/09	169	53	42	413	828	84	9	8	74	2	21	1	30
18・16	04/16	212	57	71	672	1,064	70	6	20	106	4	15	1	31
18・17	04/23	177	54	79	728	1,292	144	19	34	108	1	14	-	28
18・18	04/30	85	30	41	327	629	76	18	9	57	5	13	2	15
18・19	05/07	45	33	96	695	1,201	179	21	29	117	4	26	1	53
18・20	05/14	27	28	130	811	1,324	99	36	42	95	1	19	1	47
18・21	05/21	29	17	174	798	1,345	257	46	34	111	6	24	5	44
18・22	05/28	37	32	171	834	1,434	98	51	36	139	18	24	5	52
18・23	06/04	10	31	205	821	1,269	186	55	47	151	25	31	1	53
18・24	06/11	7	58	177	744	1,390	106	54	37	98	37	22	2	54
18・25	06/18	12	48	190	703	1,350	99	81	79	101	73	28	4	65
18・26	06/25	2	56	194	647	1,172	114	143	57	104	143	29	1	63
18・27	07/02	3	62	187	587	1,090	118	184	61	118	287	29	4	56
18・28	07/09	9	66	153	626	1,078	60	252	77	96	531	44	2	55
18・29	07/16	14	87	154	420	805	58	256	58	97	536	22	-	78
18・30	07/23	11	91	152	379	845	80	264	67	71	635	34	-	66
18・31	07/30	5	122	100	320	739	54	239	62	96	647	30	-	128
18・32	08/06	1	135	72	219	591	50	209	52	51	386	20	-	39
18・33	08/13	-	122	55	139	406	31	170	47	65	229	25	-	26
18・34	08/20	-	142	52	206	568	27	122	57	68	240	14	-	48
18・35	08/27	5	257	75	240	659	24	137	71	90	257	19	2	42
18・36	09/03	8	283	64	305	781	36	177	101	89	212	18	1	52
18・37	09/10	28	259	62	309	730	29	153	100	104	195	15	1	41
18・38	09/17	15	295	57	258	616	42	158	60	78	105	14	3	50
18・39	09/24	44	211	43	277	620	47	138	70	87	66	13	2	45
18・40	10/01	35	289	50	374	719	47	210	134	74	102	19	-	46
18・41	10/08	18	186	40	329	611	67	219	115	71	62	14	-	33
18・42	10/15	35	150	43	412	735	49	248	127	81	81	19	1	50
18・43	10/22	47	147	42	445	738	79	304	139	82	49	14	1	34
18・44	10/29	77	108	40	475	760	54	210	168	64	54	21	1	37
18・45	11/05	158	91	42	565	946	82	193	165	96	24	27	-	39
18・46	11/12	186	105	89	540	1,028	70	233	193	80	32	18	-	32
18・47	11/19	217	116	64	587	1,100	92	177	220	70	24	17	-	36
18・48	11/26	308	90	69	698	1,464	118	185	293	85	16	13	2	46
18・49	12/03	406	58	82	805	1,788	149	187	312	79	20	15	1	36
18・50	12/10	733	65	78	713	1,891	146	174	323	75	6	15	9	42
18・51	12/17	1,865	72	64	739	2,102	172	102	301	57	6	14	4	30
18・52	12/24	2,535	60	61	445	1,595	118	61	197	54	-	9	5	23
2018年計		104,379	5,012	4,086	26,292	51,340	4,331	5,613	4,192	4,158	5,146	952	77	2,049
2017年計		102,488	5,672	5,503	23,467	52,831	3,731	21,161	779	4,223	4,706	2,908	71	1,996
2018年/2017年比		1.0	0.9	0.7	1.1	1.0	1.2	0.3	5.4	1.0	1.1	0.3	1.1	1.0

(-:0)

表Ⅱ-1-9 定点把握対象疾患(インフルエンザ・小児科・眼科)
週単位定点当たり報告数の推移(2018年)

年・週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
18・1	01/01	17.48	0.32	0.33	1.13	3.63	0.60	0.06	0.07	0.22	0.01	0.06	0.03	0.50
18・2	01/08	29.46	0.33	0.33	2.37	6.53	0.39	0.07	0.18	0.40	0.01	0.12	0.05	0.83
18・3	01/15	61.63	0.43	0.20	3.40	7.70	0.30	0.06	0.20	0.40	0.03	0.09	-	0.46
18・4	01/22	65.41	0.33	0.20	2.96	5.26	0.41	0.07	0.17	0.31	0.01	0.06	0.02	0.59
18・5	01/29	68.29	0.34	0.24	3.68	5.65	0.36	0.04	0.09	0.31	0.01	0.06	-	0.61
18・6	02/05	51.37	0.40	0.20	2.91	4.96	0.45	0.03	0.03	0.35	0.02	0.06	0.02	0.73
18・7	02/12	28.54	0.40	0.24	2.43	4.21	0.41	0.01	0.05	0.27	-	0.08	0.02	0.44
18・8	02/19	20.91	0.37	0.21	3.33	5.17	0.35	0.01	0.05	0.35	0.02	0.10	0.07	0.37
18・9	02/26	14.61	0.41	0.15	3.36	5.98	0.28	0.02	0.08	0.30	0.01	0.09	0.02	0.41
18・10	03/05	8.39	0.44	0.23	3.58	5.75	0.40	0.06	0.04	0.41	0.01	0.06	-	0.41
18・11	03/12	5.88	0.45	0.28	3.74	5.19	0.32	0.10	0.06	0.36	0.01	0.12	-	0.34
18・12	03/19	3.32	0.37	0.17	3.34	4.86	0.47	0.01	0.03	0.41	0.01	0.07	-	0.45
18・13	03/26	1.91	0.28	0.27	2.62	4.86	0.37	0.11	0.07	0.52	0.02	0.06	-	0.63
18・14	04/02	1.08	0.34	0.18	2.34	4.48	0.58	0.04	0.05	0.43	-	0.05	0.10	0.73
18・15	04/09	0.66	0.32	0.26	2.52	5.05	0.51	0.05	0.05	0.45	0.01	0.13	0.03	0.75
18・16	04/16	0.82	0.35	0.43	4.10	6.49	0.43	0.04	0.12	0.65	0.02	0.09	0.03	0.79
18・17	04/23	0.69	0.33	0.48	4.47	7.93	0.88	0.12	0.21	0.66	0.01	0.09	-	0.72
18・18	04/30	0.34	0.19	0.26	2.04	3.93	0.48	0.11	0.06	0.36	0.03	0.08	0.05	0.38
18・19	05/07	0.17	0.20	0.59	4.26	7.37	1.10	0.13	0.18	0.72	0.02	0.16	0.03	1.33
18・20	05/14	0.10	0.17	0.80	4.98	8.12	0.61	0.22	0.26	0.58	0.01	0.12	0.03	1.18
18・21	05/21	0.11	0.10	1.07	4.90	8.25	1.58	0.28	0.21	0.68	0.04	0.15	0.12	1.07
18・22	05/28	0.14	0.20	1.05	5.12	8.80	0.60	0.31	0.22	0.85	0.11	0.15	0.12	1.27
18・23	06/04	0.04	0.19	1.27	5.07	7.83	1.15	0.34	0.29	0.93	0.15	0.19	0.02	1.29
18・24	06/11	0.03	0.36	1.09	4.56	8.53	0.65	0.33	0.23	0.60	0.23	0.13	0.05	1.32
18・25	06/18	0.05	0.29	1.17	4.31	8.28	0.61	0.50	0.48	0.62	0.45	0.17	0.10	1.59
18・26	06/25	0.01	0.34	1.18	3.95	7.15	0.70	0.87	0.35	0.63	0.87	0.18	0.02	1.54
18・27	07/02	0.01	0.38	1.15	3.62	6.73	0.73	1.14	0.38	0.73	1.77	0.18	0.10	1.37
18・28	07/09	0.04	0.41	0.94	3.86	6.65	0.37	1.56	0.48	0.59	3.28	0.27	0.05	1.34
18・29	07/16	0.05	0.53	0.94	2.56	4.91	0.35	1.56	0.35	0.59	3.27	0.13	-	1.90
18・30	07/23	0.04	0.55	0.93	2.31	5.15	0.49	1.61	0.41	0.43	3.87	0.21	-	1.61
18・31	07/30	0.02	0.75	0.62	1.98	4.56	0.33	1.48	0.38	0.59	3.99	0.19	-	3.12
18・32	08/06	-	0.95	0.51	1.54	4.16	0.35	1.47	0.37	0.36	2.72	0.14	-	1.22
18・33	08/13	-	0.81	0.37	0.93	2.71	0.21	1.13	0.31	0.43	1.53	0.17	-	0.67
18・34	08/20	-	0.90	0.33	1.30	3.59	0.17	0.77	0.36	0.43	1.52	0.09	-	1.26
18・35	08/27	0.02	1.58	0.46	1.47	4.04	0.15	0.84	0.44	0.55	1.58	0.12	0.05	1.05
18・36	09/03	0.03	1.74	0.39	1.87	4.79	0.22	1.09	0.62	0.55	1.30	0.11	0.02	1.27
18・37	09/10	0.11	1.67	0.40	1.99	4.71	0.19	0.99	0.65	0.67	1.26	0.10	0.03	1.05
18・38	09/17	0.06	1.86	0.36	1.62	3.87	0.26	0.99	0.38	0.49	0.66	0.09	0.07	1.22
18・39	09/24	0.17	1.29	0.26	1.69	3.78	0.29	0.84	0.43	0.53	0.40	0.08	0.05	1.10
18・40	10/01	0.14	1.76	0.30	2.28	4.38	0.29	1.28	0.82	0.45	0.62	0.12	-	1.15
18・41	10/08	0.07	1.13	0.24	2.01	3.73	0.41	1.34	0.70	0.43	0.38	0.09	-	0.80
18・42	10/15	0.14	0.92	0.26	2.53	4.51	0.30	1.52	0.78	0.50	0.50	0.12	0.02	1.22
18・43	10/22	0.18	0.90	0.26	2.73	4.53	0.48	1.87	0.85	0.50	0.30	0.09	0.02	0.83
18・44	10/29	0.30	0.66	0.25	2.91	4.66	0.33	1.29	1.03	0.39	0.33	0.13	0.02	0.90
18・45	11/05	0.62	0.56	0.26	3.49	5.84	0.51	1.19	1.02	0.59	0.15	0.17	-	0.95
18・46	11/12	0.72	0.64	0.54	3.29	6.27	0.43	1.42	1.18	0.49	0.20	0.11	-	0.78
18・47	11/19	0.84	0.71	0.39	3.60	6.75	0.56	1.09	1.35	0.43	0.15	0.10	-	0.90
18・48	11/26	1.19	0.55	0.42	4.26	8.93	0.72	1.13	1.79	0.52	0.10	0.08	0.05	1.12
18・49	12/03	1.58	0.36	0.51	4.97	11.04	0.92	1.15	1.93	0.49	0.12	0.09	0.02	0.88
18・50	12/10	2.86	0.40	0.48	4.37	11.60	0.90	1.07	1.98	0.46	0.04	0.09	0.22	1.02
18・51	12/17	7.34	0.45	0.40	4.62	13.14	1.08	0.64	1.88	0.36	0.04	0.09	0.10	0.73
18・52	12/24	10.10	0.37	0.38	2.76	9.91	0.73	0.38	1.22	0.34	-	0.06	0.13	0.59
2018年計		409.33	31.13	25.38	163.30	318.88	26.90	34.86	26.04	25.83	31.96	5.91	1.93	51.23
2017年計		406.70	35.45	34.39	146.67	330.19	23.32	132.26	4.87	26.39	29.41	18.18	1.78	49.90
2018年/2017年比		1.0	0.9	0.7	1.1	1.0	1.2	0.3	5.3	1.0	1.1	0.3	1.1	1.0

(-0)

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅱ-1-10 定点把握対象疾患(基幹)
週単位報告数・定点当たり報告数の推移(2018年)

年・週	月/日 (週開始日)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ (入院)	年・週	月/日 (週開始日)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ (入院)
18・1	01/01	-	-	1	-	-	21	18・1	01/01	-	-	0.10	-	-	2.10
18・2	01/08	-	-	4	1	-	16	18・2	01/08	-	-	0.40	0.10	-	1.60
18・3	01/15	-	2	4	-	-	38	18・3	01/15	-	0.20	0.40	-	-	3.80
18・4	01/22	-	-	-	-	-	50	18・4	01/22	-	-	-	-	-	5.00
18・5	01/29	-	-	-	-	1	33	18・5	01/29	-	-	-	-	0.10	3.30
18・6	02/05	-	3	-	-	-	33	18・6	02/05	-	0.30	-	-	-	3.30
18・7	02/12	-	1	1	-	-	26	18・7	02/12	-	0.10	0.10	-	-	2.60
18・8	02/19	-	2	1	-	-	16	18・8	02/19	-	0.20	0.10	-	-	1.60
18・9	02/26	-	1	1	2	1	20	18・9	02/26	-	0.10	0.10	0.20	0.10	2.00
18・10	03/05	-	-	2	-	1	13	18・10	03/05	-	-	0.20	-	0.10	1.30
18・11	03/12	-	2	-	-	-	11	18・11	03/12	-	0.20	-	-	-	1.10
18・12	03/19	-	1	-	-	1	9	18・12	03/19	-	0.10	-	-	0.10	0.90
18・13	03/26	-	1	-	-	3	8	18・13	03/26	-	0.10	-	-	0.30	0.80
18・14	04/02	-	1	2	-	1	7	18・14	04/02	-	0.09	0.18	-	0.09	0.64
18・15	04/09	-	-	-	-	2	3	18・15	04/09	-	-	-	-	0.18	0.27
18・16	04/16	2	-	-	-	2	8	18・16	04/16	0.18	-	-	-	0.18	0.73
18・17	04/23	-	1	1	-	5	1	18・17	04/23	-	0.09	0.09	-	0.45	0.09
18・18	04/30	1	-	1	-	5	1	18・18	04/30	0.09	-	0.09	-	0.45	0.09
18・19	05/07	1	1	2	-	6	1	18・19	05/07	0.09	0.09	0.18	-	0.55	0.09
18・20	05/14	-	1	1	-	7	-	18・20	05/14	-	0.09	0.09	-	0.64	-
18・21	05/21	-	2	1	-	1	-	18・21	05/21	-	0.18	0.09	-	0.09	-
18・22	05/28	-	1	-	-	4	1	18・22	05/28	-	0.09	-	-	0.36	0.09
18・23	06/04	-	2	1	-	-	-	18・23	06/04	-	0.18	0.09	-	-	-
18・24	06/11	-	-	1	-	-	-	18・24	06/11	-	-	0.09	-	-	-
18・25	06/18	-	3	2	-	-	-	18・25	06/18	-	0.27	0.18	-	-	-
18・26	06/25	-	-	2	-	-	-	18・26	06/25	-	-	0.18	-	-	-
18・27	07/02	-	1	-	-	-	-	18・27	07/02	-	0.09	-	-	-	-
18・28	07/09	-	1	1	-	-	1	18・28	07/09	-	0.09	0.09	-	-	0.09
18・29	07/16	1	6	1	-	-	-	18・29	07/16	0.09	0.55	0.09	-	-	-
18・30	07/23	1	1	2	-	-	-	18・30	07/23	0.09	0.09	0.18	-	-	-
18・31	07/30	-	4	5	-	-	-	18・31	07/30	-	0.36	0.45	-	-	-
18・32	08/06	-	2	2	-	-	-	18・32	08/06	-	0.18	0.18	-	-	-
18・33	08/13	-	1	3	-	-	-	18・33	08/13	-	0.09	0.27	-	-	-
18・34	08/20	-	3	1	-	-	-	18・34	08/20	-	0.27	0.09	-	-	-
18・35	08/27	-	1	-	1	1	1	18・35	08/27	-	0.09	-	0.09	0.09	0.09
18・36	09/03	-	1	1	-	-	-	18・36	09/03	-	0.09	0.09	-	-	-
18・37	09/10	-	1	2	-	-	-	18・37	09/10	-	0.09	0.18	-	-	-
18・38	09/17	-	1	3	-	-	-	18・38	09/17	-	0.09	0.27	-	-	-
18・39	09/24	-	1	4	-	-	3	18・39	09/24	-	0.09	0.36	-	-	0.27
18・40	10/01	-	1	2	-	-	-	18・40	10/01	-	0.09	0.18	-	-	-
18・41	10/08	-	2	4	-	-	-	18・41	10/08	-	0.18	0.36	-	-	-
18・42	10/15	-	2	2	-	1	-	18・42	10/15	-	0.18	0.18	-	0.09	-
18・43	10/22	-	1	4	-	-	-	18・43	10/22	-	0.09	0.36	-	-	-
18・44	10/29	-	-	4	-	-	-	18・44	10/29	-	-	0.36	-	-	-
18・45	11/05	-	1	1	-	-	1	18・45	11/05	-	0.09	0.09	-	-	0.09
18・46	11/12	-	1	3	-	-	1	18・46	11/12	-	0.09	0.27	-	-	0.09
18・47	11/19	-	1	4	-	-	1	18・47	11/19	-	0.09	0.36	-	-	0.09
18・48	11/26	1	-	5	-	1	-	18・48	11/26	0.09	-	0.45	-	0.09	-
18・49	12/03	-	2	2	-	-	1	18・49	12/03	-	0.18	0.18	-	-	0.09
18・50	12/10	-	-	2	-	-	-	18・50	12/10	-	-	0.18	-	-	-
18・51	12/17	2	-	1	-	-	11	18・51	12/17	0.18	-	0.09	-	-	1.00
18・52	12/24	-	1	3	-	-	16	18・52	12/24	-	0.09	0.27	-	-	1.45
2018年	計	9	61	90	4	43	352	2018年	計	0.84	5.70	8.41	0.37	4.02	32.90
2017年	計	14	45	144	12	112	388	2017年	計	1.40	4.50	14.40	1.20	11.20	38.80
2018年/2017年比		0.6	1.4	0.6	0.3	0.4	0.9	2018年/2017年比		0.6	1.3	0.6	0.3	0.4	0.8

(-0)

(-0)

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅱ-1-11 定点把握対象疾患(基幹)
月単位報告数・定点当たり報告数の推移(2018年)

月別	メチリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	9	0.90	2	0.20	-	-
2月	17	1.70	7	0.70	-	-
3月	12	1.20	11	1.10	-	-
4月	13	1.18	7	0.64	-	-
5月	12	1.09	2	0.18	-	-
6月	21	1.91	2	0.18	1	0.09
7月	19	1.73	6	0.55	-	-
8月	22	2.00	7	0.64	-	-
9月	10	0.91	2	0.18	-	-
10月	18	1.64	9	0.82	-	-
11月	22	2.00	4	0.36	-	-
12月	24	2.18	6	0.55	-	-
2018年計	199	18.60	65	6.07	1	0.09
2017年計	150	15.00	63	6.30	1	0.10
2018年/2017年比	1.3	1.2	1.0	1.0	1.0	0.9

(-:0)

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅱ-1-12 定点把握対象疾患(性感染症)
月単位報告数・定点当たり報告数の推移(2018年)

月別	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス 感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	115	1.98	32	0.55	22	0.38	38	0.66
2月	109	1.88	35	0.60	23	0.40	34	0.59
3月	149	2.53	48	0.81	15	0.25	34	0.58
4月	117	1.98	41	0.69	29	0.49	39	0.66
5月	125	2.16	44	0.76	24	0.41	49	0.84
6月	138	2.34	42	0.71	22	0.37	51	0.86
7月	130	2.20	41	0.69	24	0.41	44	0.75
8月	129	2.22	38	0.66	30	0.52	51	0.88
9月	137	2.32	29	0.49	15	0.25	44	0.75
10月	146	2.56	35	0.61	18	0.32	47	0.82
11月	149	2.57	32	0.55	21	0.36	41	0.71
12月	115	1.98	37	0.64	20	0.34	35	0.60
2018年計	1,559	26.74	454	7.79	263	4.51	507	8.70
2017年計	1,561	26.82	510	8.76	271	4.66	499	8.57
2018年/2017年比	1.0	1.0	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅱ-1-13 定点把握対象疾患(性感染症)
性年齢階級別報告患者数の推移(2018年)

年齢階級	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	-	-	-	-	-	-	-	1
1-4歳	-	-	-	1	-	-	-	-
5-9歳	-	-	-	1	-	-	-	-
10-14歳	-	-	-	-	-	1	-	-
15-19歳	15	117	1	19	2	7	14	23
20-24歳	144	348	13	47	13	50	73	36
25-29歳	114	203	8	74	9	33	73	18
30-34歳	102	130	11	48	18	18	68	12
35-39歳	76	72	12	39	13	10	49	8
40-44歳	55	44	9	32	17	9	39	16
45-49歳	36	42	14	29	17	8	28	5
50-54歳	23	9	7	26	6	5	14	2
55-59歳	8	5	5	14	12	-	15	1
60-64歳	7	4	2	7	2	1	5	1
65-69歳	4	-	2	8	5	4	6	-
70歳～	1	-	6	19	3	-	-	-
合計	585	974	90	364	117	146	384	123
男女比	0.60	1.00	0.25	1.00	0.80	1.00	3.12	1.00

(-:0)

(2) 病原体情報

a. 全数把握対象疾患の病原体検出状況

(a) 一類・二類感染症の病原体検出状況

一類感染症の検出はなかった。

二類感染症の結核菌は、遺伝子中の多重反復配列の反復数を株間で比較する Variable Numbers of Tandem Repeats 法(VNTR 法)等の遺伝子解析を埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターで実施している。2018年に医療機関から収集され、遺伝子解析に供試された肺結核患者由来の分離菌株は233株であった。これらの解析結果では、北京型は168株(72.1%)、非北京型は60株(25.8%)、判定できなかったものが5株であった。さらに、北京型の系統推定では121株(72.0%)が祖先型、43株(25.6%)が新興型、推定不能が4株であった。

また、ウイルス感染症では、中東呼吸器症候群疑いの臨床検体が1件採取されたが、MERS コロナウイルスは検出されなかった。

(b) 三類感染症の病原体検出状況

三類感染症細菌は、コレラ菌1株、赤痢菌31株、腸管出血性大腸菌278株、チフス菌1株、パラチフスA菌2株であった。そのうち国外感染例からの検出は、赤痢菌29株、チフス菌1株、パラチフスA菌2株

で、国内感染例は、コレラ菌 1 株、赤痢菌 2 株、腸管出血性大腸菌 278 株で、チフス菌、パラチフス A 菌はなかった(表 II -1-14)。

表 II -1-14 埼玉県 の三類感染症細菌検出状況(2018 年)

	コレラ菌	赤痢菌	腸管出血性大腸菌	チフス菌	パラチフスA菌	合計
国外感染	-	29	-	1	2	32
国内感染	1	2	278	-	-	281
合 計	1	31	278	1	2	313

(-:0)

コレラ菌は国内を推定感染地とする事例から、*Vibrio cholerae* O1 エルトール小川型、コレラトキシン陽性株が 1 株検出された。

赤痢菌の血清型は、*Shigella sonnei* が 24 株、*Shigella flexneri* が 6 株、*Shigella boydii* が 1 株の計 31 株であった。このうち 29 株が海外渡航歴のある患者から分離されていた。推定感染地はインドネシアやフィリピン等のアジアが主だったが、今回アメリカ(ハワイ)からの検出も 8 株あった。国内感染が疑われる株は *Shigella sonnei* で 2 株あった(表 II -1-15)。

表 II -1-15 県内で分離された赤痢菌 (2018 年)

血清型	推定感染地域		国名
	国内	国外	
<i>S. boydii</i> 4		1	インドネシア(1)
<i>S. flexneri</i> 1b		1	イタリア(1)
<i>S. flexneri</i> 2a		1	インドネシア(1)
<i>S. flexneri</i> 2b		1	インドネシア(1)
<i>S. flexneri</i> 6		2	モロッコ(2)
<i>S. flexneri</i> variant Y		1	インドネシア(1)
<i>S. sonnei</i>	2	22	アメリカ(ハワイ)(8) インドネシア(8) フィリピン(2) インド(1) ミャンマー(1) ブラジル、ペルー(1) マレーシア、ベトナム(1)

()の数字は株数

腸管出血性大腸菌は 278 株が県内で分離された。血清型別では、20 血清型が検出された。最も多く検出された血清型は例年同様 O157 : H7 で 158 株(56.8%)、次いで O26 : H11 が 57 株(20.5%)であった。O157 : H-、O121 : H19 がそれぞれ 16 株、O111 : H-が 9 株、その他の血清型は 3 株

以下であった。毒素型では、VT2 が 106 株(38.1%)、VT1 が 72 株(25.9%)、VT1 VT2 が 100 株(36.0%)であった(表 II -1-16)。

表 II -1-16 腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(2018 年)

血清型	毒素型			計
	VT1	VT2	VT1VT2	
O157:H7	—	75	83	158
O157:H—	—	3	13	16
O157:HUT	—	—	1	1
O26:H11	54	3	—	57
O26:H—	2	—	—	2
O111:H—	8	—	1	9
O8:HUT	—	1	—	1
O15:H18	1	—	—	1
O84:H—	1	—	—	1
O91:H51	—	—	1	1
O91:H—	1	—	1	2
O103:H2	2	1	—	3
O103:H25	1	—	—	1
O113:H21	—	1	—	1
O113:H—	—	1	—	1
O121:H19	—	16	—	16
O145:H—	2	1	—	3
O181:H16	—	1	—	1
OUT:H2	—	1	—	1
OUT:H—	—	2	—	2
合計	72	106	100	278

(数値部分の—:0)

チフス菌は、1月に10歳未満の女性から1株分離された。海外渡航歴があり、発症状況から国外での感染が疑われた。推定感染地域は、パキスタンで、ファージ型はUVS4であった(表 II -1-17)。

パラチフス A 菌は、7月に10歳未満の女性と50歳代の男性から、それぞれ1株、計2株分離された。それぞれバングラデシュ、タイ・ミャンマー・カンボディアへの海外渡航歴があり、発症状況から国外での感染が疑われた。ファージ型は、50歳代男性由来株1株が実施済みで1型であった(表 II -1-17)。

表Ⅱ-1-17 県内で分離されたチフス菌及びパラチフス A 菌(2018年)

分離月	血清型名	性別	年齢	ファージ型	推定感染地域
1月	S. Typhi	女	10歳未満	UVS4	パキスタン
7月	S. Paratyphi A	女	10歳未満	未実施	バングラデシュ
7月	S. Paratyphi A	男	50歳代	1	タイ、ミャンマー、カンボディア

(c) 四類感染症の病原体検出状況

四類感染症のウイルスの月別検出状況を表Ⅱ-1-18に示す。

E型肝炎は20例25検体が採取され、13例15検体からE型肝炎ウイルスが検出された。遺伝子型は、G3が9例、型別未確定が4例であった。ウイルスが検出された13例の海外渡航歴は、バングラデシュが1例、不明が2例であったが、その他はいずれも渡航歴がなかった。

A型肝炎は34例37検体が採取され、33例36検体からA型肝炎ウイルスが検出された。遺伝子型は、IAが32例、IBが1例であった。ウイルスが検出された33例の海外渡航歴は、中国、タイが各1例、不明が3例であったが、その他はいずれも渡航歴がなかった。

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は2例3検体が採取されたが、SFTSウイルスは検出されなかった。

チクングニア熱の診断名で採取された検体はなかった。しかしながら、麻しんの診断名で採取された1例3検体において、2検体からチクングニアウイルスが検出された。

デング熱は5例9検体が採取され、1検体からデングウイルスが検出された。検出されたデングウイルスは1型で、バングラデシュへの渡航歴があった。

表Ⅱ-1-18 月別四類ウイルス検出状況(全数把握対象2018年)

平成31年3月31日現在

臨床診断名	ウイルス 検体数 検体合計数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
		E型肝炎	1	4	3	10	6	23	7	10	1	6	2	1
A型肝炎	検体数	1	3	2	5		8		2		2	2		25
	E型肝炎		2	2	3		7					1		15
重症熱性血小板減少症候群	検体数		1		3	6	15	7	4	1				37
	A型肝炎		1		3	6	15	6	4	1				36
デング熱	検体数				2				1					3
	デング			1					3		4		1	9
								1						1

レジオネラ症は、肺炎症状を呈する患者から *Legionella* 属菌 16 株が分離された。そのうち、15 株が *Legionella pneumophila* 血清群 1 で、1 株が *Legionella pneumophila* 血清群 2 であった。

(d) 五類感染症全数把握対象疾患の病原体検出状況

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症では、11 菌種、92 株のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)が分離された。最も多く分離されたのは、*Enterobacter aerogenes* で 37 株(40.2%)、次いで *Enterobacter cloacae* が 21 株(22.8%)で、*Enterobacter asburiae* の 2 株、*Enterobacter amnigenus* の 1 株を含め *Enterobacter* 属は 61 株で全体の 66.3%を占めていた。次いで *Klebsiella pneumoniae* 12 株、*Escherichia coli* が 6 株、*Serratia marcescens* 6 株、*Citrobacter freundii* 3 株、*Klebsiella oxytoca* 2 株、*Citrobacter koseri*、*Hafnia alvei* がそれぞれ 1 株の順であった。

薬剤耐性遺伝子は、主にカルバペネマーゼ遺伝子(NDM 型、KPC 型、IMP 型(IMP-1 型、IMP-2 型)、VIM 型、OXA-48 型)5 種、基質特異性拡張型 βラクタマーゼ(ESBL)遺伝子(TEM 型、SHV 型、CTX-M-1group、CTX-M-2group、CTX-M-9group)5 種、AmpC 型 βラクタマーゼ遺伝子(ACC 型、CIT 型、DHA 型、EBC 型、FOX 型、MOX 型)6 種の計 16 種類について検査を実施した。

カルバペネマーゼ遺伝子保有株いわゆるカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌(CPE)は、25 株(27.2%)であった。すべての CPE は IMP 型保有株であった。NDM 型、KPC 型、VIM 型、OXA-48 型保有株は検出されなかった。CPE の菌種は、*Enterobacter cloacae*、*Enterobacter asburiae*、*Klebsiella pneumoniae*、*Klebsiella oxytoca*、*Escherichia coli*、*Citrobacter freundii*、*Citrobacter koseri* の 7 菌種であった。ESBL 遺伝子保有株は、26 株(28.3%)、AmpC 型 βラクタマーゼ遺伝子保有株は、24 株(26.1%)であった。

五類感染症全数把握対象疾患のウイルスの月別検出状況を表 II-1-19 に示す。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)は 6 例 37 検体が採取され、4 例 8 検体から 10 件のウイルスが検出された。エンテロウイルス D68 型の検出は 1 件だった。その他のウイルスは、ヒトパルボウイルス B19 が 1 例 4 件、パレコウイルス、ライノウイルス、EB ウイルス、サイトメガロウイルス及びヒトヘルペスウイルス 7 がそれぞれ 1 件だった。このうち 2 検体で複数のウイルスが重複して検出された。

急性脳炎は 52 例 140 検体が採取され、27 例 37 検体から 52 件のウイ

ルスが検出された。検出されたウイルスは、ヒトヘルペスウイルス 6 が 8 例 10 件、ヒトヘルペスウイルス 7 が 9 例 9 件、ライノウイルスが 7 例 7 件、EB ウイルスが 4 例 5 件、サイトメガロウイルスが 4 例 4 件、ロタウイルス A 群が 3 例 3 件、単純ヘルペスウイルス 1 型が 2 例 2 件、エコーウイルス 11 型が 1 例 3 件、コクサッキーウイルス B4 型、コクサッキーウイルス B5 型及びムンプスウイルスがそれぞれ 1 例 2 件、RS ウイルス、アデノウイルス 2 型及びアデノウイルス 41 型がそれぞれ 1 件であった。このうち 9 検体で、複数のウイルスが重複して検出された。重複して検出された検体は、単純ヘルペスウイルス 1 型と EB ウイルスが 1 検体、EB ウイルスとヒトヘルペスウイルス 6 が 1 検体、ライノウイルスと EB ウイルスが 1 検体、ヒトヘルペスウイルス 6 とヒトヘルペスウイルス 7 が 1 検体、ライノウイルス、ヒトヘルペスウイルス 6、ヒトヘルペスウイルス 7 及びムンプスウイルスが 1 検体、EB ウイルスとヒトヘルペスウイルス 7 が 1 検体、サイトメガロウイルスとヒトヘルペスウイルス 7 が 1 検体、ライノウイルス、サイトメガロウイルス、ヒトヘルペスウイルス 6、ヒトヘルペスウイルス 7 及びアデノウイルス 2 型が 1 検体、ライノウイルス、ヒトヘルペスウイルス 6 及びヒトヘルペス 7 が 1 検体であった。また、複数の検体が採取された症例のうち 4 例で、検体ごとに異なるウイルスが検出された。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症では 13 株が分離された。うち *Streptococcus pyogenes* は 8 株、*Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* (SDSE) 4 株、B 群溶血性レンサ球菌 (GBS) である *Streptococcus agalactiae* 1 株であった。*Streptococcus pyogenes* の *emm* 型は、*emm1.0* が 2 株、*emm44.0* が 2 株、*emm113.0* が 2 株、*emm4.0* 及び *emm49.0* がそれぞれ 1 株検出された。T 型別は、T1、T11、T12 がそれぞれ 2 株、T4 と T 型別不能がそれぞれ 1 株ずつであった。

侵襲性髄膜炎菌感染症では、髄膜炎菌 (*Neisseria meningitidis*) が 6 月に 1 株分離された。血清型は C 群であった。MLST (Multilocus Sequence Typing) 法による解析では、ST11 であった。

侵襲性肺炎球菌感染症では、肺炎球菌 (*Streptococcus pneumoniae*) が 8 月と 10 月に 1 株ずつ、11 月に 3 株、計 5 株が分離された。莢膜型/遺伝子型 (MLST) は莢膜型 23A 型/ST10000 が 2 株、莢膜型 15B 型/ST199、莢膜型 15B 型/ST3440、莢膜型 24B 型/ST2754 がそれぞれ 1 株であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症では、4 株のバンコマイシン耐性腸球菌が分離された。分離株の菌種は全て *Enterococcus faecium* で、バンコマイシン耐性遺伝子は *vanB* であった。

風しんは 212 例 534 検体が採取され、103 例 193 件の風しんウイルスが検出された。風しんウイルスが検出された症例のうち、ワクチン株が検出された 1 例を除いた 102 例の遺伝子型は、1E が 91 例及び型別未確定が 11 例であった。風しんウイルスの他には、麻疹ウイルスが 1 例 3 件、麻疹ウイルス(ワクチン株)が 1 例 2 件、ヒトパルボウイルス B19 が 15 例 33 件、コクサッキーウイルス A9 型が 8 例 8 件、ライノウイルスが 4 例 4 件、ヒトヘルペス 6 が 2 例 3 件、パレコウイルスが 2 例 2 件、ヒトヘルペスウイルス 7 が 2 例 2 件、エンテロウイルス D68 型、EB ウイルス及びインフルエンザウイルス B 型がそれぞれ 1 件検出された。このうち 8 検体で複数のウイルスが重複して検出された。

先天性風しん症候群は 2 例 3 検体が採取されたが、風しんウイルスは検出されなかった。

表 II -1-19 月別五類ウイルス検出状況(全数把握対象 2018 年)

平成31年 3月31日現在

臨床診断名	ウイルス 検体数	検出月 検体合計数												累計 1116	その他のウイルス
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
急性弛緩性麻痺	検体数	22	31	41	53	163	54	35	80	168	224	176	69	37	パレコ(1), ライノ(1), EB(1), サイトメガロ(1), ヒトヘルペス 7(1), ヒトパルボ B19(4)
	エンテロ D68					5		7			12	13		1	
急性脳炎 (四類以外)	検体数	20	8	14	11	22	4	6	16	3	12	14	10	140	
	コクサッキー B4								2					2	
	コクサッキー B5											2		2	
	エコー 11											3		3	
	ライノ	1		1		2					1		2	7	
	単純ヘルペス 1	1				1								2	
	EB	2		1					1	1				5	
	サイトメガロ					1			1		1		1	4	
	ヒトヘルペス 6	1			2	2			1				4	10	
	ヒトヘルペス 7			1	1	1			1		2	1	2	9	
	ムンプス					2								2	
	ロタ (A)				1	1	1							3	
	RS								1					1	
アデノ 2												1	1		
アデノ 41												1	1		
風しん	検体数	2	6	2	3	7	12	3	32	148	154	121	44	534	麻疹(3), 麻疹(ワクチン株)(2), コクサッキー A9(8), エンテロ D68(1), エンテロ nt(1), パレコ(2), ライノ(4), EB(1), ヒトヘルペス 6(3), ヒトヘルペス 7(2), ヒトパルボ B19(33), インフルエンザ B(1), アデノ nt(3)
	風しん						5		18	59	48	47	15	192	
	風しん(ワクチン株)											1		1	
先天性風しん 症候群	検体数						2					1		3	
	風しん														
麻疹	検体数		17	25	39	129	36	19	32	17	46	28	14	402	風しん(16), コクサッキー A9(1), コクサッキー A16(2), パレコ(1), ライノ(9), EB(1), ヒトヘルペス 6(11), ヒトヘルペス 7(3), ヒトパルボ B19(16), アデノ 1(1), アデノ nt(1), インフルエンザ AH3(1), インフルエンザ B(1), インフルエンザ C(1), パラインフルエンザ 1(1), チクングニア(2)
	麻疹		10		3	2	4			1	3	5		28	
	麻疹(ワクチン株)			1	1								1		

麻しんは 145 例 402 検体が採取され、16 例 31 件の麻しんウイルスが検出された。麻しんウイルスが検出された症例のうち、ワクチン株が検出された 3 例を除いた 13 例の遺伝子型は、D8 が 12 例及び型別未確定が 1 例であった。麻しんウイルスの他には、風しんウイルスが 6 例 16 件、ヒトパルボウイルス B19 が 8 例 16 件、ヒトヘルペスウイルス 6 が 10 例 11 件、ライノウイルスが 9 例 9 件、ヒトヘルペスウイルス 7 が 3 例 3 件、コクサッキーウイルス A16 型が 2 例 2 件、チクングニアウイルスが 1 例 2 件、コクサッキーウイルス A9 型、パレコウイルス、EB ウイルス、アデノウイルス 1 型、インフルエンザウイルス AH3 亜型、B 型、C 型及びパラインフルエンザウイルス 1 型がそれぞれ 1 件検出された。このうち 3 検体で複数のウイルスが重複して検出された。また、複数の検体が採取された症例のうち 4 例で、検体ごとに異なるウイルスが検出された。

薬剤耐性アシネトバクター(MDRA)感染症では 7 株が分離された。2 月、8 月、10 月、11 月、12 月に分離され、うち 8 月、11 月は 2 株分離された。菌種はすべて *Acinetobacter baumannii* であった。

(e) 五類感染症定点把握対象疾患の病原体検出状況

五類感染症定点把握対象疾患のウイルスの月別検出状況を表 II-1-20 及び表 II-1-21 に示す。

表 II-1-20 月別インフルエンザウイルス検出状況
(定点把握対象 2018 年)

臨床診断名	ウイルス	検出月												累計	その他のウイルス
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ	検体数	266	198	112	36	13	7	4	1	2	9	15	83	746	RS(4), ヒトメタニューモ(3), パラインフルエンザ3(3), パラインフルエンザ4(1), コロナ(4), ポカ(1), コクサッキー A4(1), ライノ(10), 単純ヘルペス1(1), アデノ nt(2)
	インフルエンザ AH1pdm09	52	3	6				1		1	2	8	50	123	
	インフルエンザ AH3	56	59	51	26	9	3		1		4	4	29	242	
	インフルエンザ A				1						1	1		3	
	インフルエンザ B	151	130	52	4	1							1	340	
インフルエンザ C		1											1		

平成31年 3月31日現在

2017-2018 シーズンのインフルエンザは、2018 年 1 月から 8 月までに 637 検体が採取された。インフルエンザウイルスの検出数は、B 型が 338 件、AH3 亜型が 205 件、AH1pdm09 が 62 件、A 型亜型未確定及び C 型がそれぞれ 1 件であった。このうち、7 検体で AH3 亜型と B 型が、1 検体で AH1pdm09 と B 型が重複して検出された。

2018-2019 シーズンのインフルエンザは、2018 年 9 月から 12 月まで

に 109 検体が採取された。インフルエンザウイルスの検出数は、AH1pdm09 が 61 件、AH3 亜型が 37 件、B 型及び A 型亜型未確定がそれぞれ 2 件であった。

インフルエンザウイルス以外のウイルス検出は、ライノウイルスが 10 件、RS ウイルス及びコロナウイルスがそれぞれ 4 件、ヒトメタニューモウイルス及びパラインフルエンザウイルス 3 型がそれぞれ 3 件、パラインフルエンザウイルス 4 型、ボカウイルス、コクサッキーウイルス A4 型及び単純ヘルペスウイルス 1 型がそれぞれ 1 件であった。このうち 6 検体で複数のウイルスが重複して検出された。

RS ウイルス感染症は 73 検体が採取され、57 件の RS ウイルスが検出された。検出された RS ウイルスの内訳は、RSV-A が 17 件、RSV-B が 40 件であった。RS ウイルス以外のウイルス検出は、パラインフルエンザウイルス 3 型が 5 件、ヒトメタニューモウイルスが 3 件、コロナウイルス及びライノウイルスがそれぞれ 2 件、パラインフルエンザウイルス 4 型、アデノウイルス 1 型及び 2 型がそれぞれ 1 件であった。このうち 3 検体で複数のウイルスが重複して検出された。

咽頭結膜熱は 78 検体が採取され、61 件のアデノウイルスが検出された。検出されたアデノウイルスの内訳は、アデノウイルス 3 型が 25 件、2 型が 23 件、1 型が 9 件、5 型が 4 件であった。アデノウイルス以外のウイルス検出は、コクサッキーウイルス A2 型、A6 型、B4 型及びパラインフルエンザウイルス 3 型がそれぞれ 1 件であった。

A 群溶血性レンサ球菌感染症では、咽頭炎由来株から *Streptococcus pyogenes* が 32 株分離された。2 月 4 株、3 月 6 株、4 月 3 株、5 月 4 株、6 月 6 株、8 月 2 株、9 月 4 株、10 月、11 月、12 月がそれぞれ 1 株で、3 月、6 月に分離数が多い。T 型別では、T4 型が 10 株、TB3264 型が 7 株、T3 型が 6 株、T12 型が 4 株、T1 型が 3 株と多く、次いで T11 型が 1 株、T25 型が 1 株であった。emm 型では、未実施 1 株を除き、9 タイプ検出された。うち emm4.0 が 10 株、次いで emm89.0 が 7 株、emm3.93 が 6 株、emm1.0 が 3 株、その他 5 タイプは 1 株ずつの検出であった。

感染性胃腸炎は 129 検体が採取された。検出されたウイルスは、ノロウイルスが 30 件、サポウイルスが 8 件、アストロウイルス及びアデノウイルス 40/41 型がそれぞれ 6 件、パレコウイルス及びライノウイルスがそれぞれ 5 件、アデノウイルス 1 型及び 2 型がそれぞれ 4 件、ロタウイルス A 群が 2 件、アデノウイルス 3 型、5 型、31 型、コクサッキーウイルス B4 型、B5 型、エコーウイルス 18 型及びヒトヘルペスウイルス 7 がそれぞれ 1 件であった。このうち 8 検体で複数のウイルスが重複して検

出された。

水痘は 3 検体が採取され、水痘帯状疱疹ウイルスが 3 件検出された。

手足口病は 71 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A16 型及びエンテロウイルス A71 型が 23 件、コクサッキーウイルス A9 型が 5 件、コクサッキーウイルス A4 型が 2 件、コクサッキーウイルス A5 型、A6 型及び B4 型がそれぞれ 1 件であった。エンテロウイルス以外のウイルス検出は、ライノウイルスが 6 件、アデノウイルス 1 型及びサイトメガロウイルスがそれぞれ 2 件、ヒトヘルペスウイルス 7 及びパラインフルエンザウイルス 3 型がそれぞれ 1 件であった。このうち 5 検体で複数のウイルスが重複して検出された。

伝染性紅斑は 3 検体が採取され、ヒトパルボウイルス B19 が 3 件検出された。

突発性発しんは 10 検体が採取された。検出されたウイルスは、ヒトヘルペスウイルス 6 が 4 件、ヒトヘルペスウイルス 7、サイトメガロウイルス及びライノウイルスがそれぞれ 1 件であった。このうち 1 検体で複数のウイルスが重複して検出された。

ヘルパンギーナは 32 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A4 型が 15 件、コクサッキーウイルス A2 型が 4 件、コクサッキーウイルス A16 型が 2 件、コクサッキーウイルス A5 型、エンテロウイルス A71 型及びコクサッキーウイルス B2 型がそれぞれ 1 件であった。エンテロウイルス以外のウイルス検出は、ライノウイルス及び単純ヘルペスウイルス 1 型がそれぞれ 2 件、アデノウイルス 2 型が 1 件であった。

流行性耳下腺炎は 3 検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった。

流行性角結膜炎は 16 検体が採取された。検出されたウイルスは、アデノウイルス 54 型が 12 件、アデノウイルス 56 型が 2 件、アデノウイルス 53 型及び 64 型がそれぞれ 1 件であった。

無菌性髄膜炎は 90 例 222 検体が採取され、48 例 76 検体から 83 件のウイルスが検出された。検出されたウイルスは、コクサッキーウイルス B4 型が 15 例 29 件、ヒトヘルペスウイルス 7 が 7 例 7 件、EB ウイルス及びサイトメガロウイルスが 5 例 5 件、ライノウイルス及びヒトヘルペスウイルス 6 が 3 例 5 件、エコーウイルス 11 型が 3 例 4 件、コクサッキーウイルス B2 型が 2 例 5 件、エコーウイルス 25 型が 2 例 4 件、エンテロウイルス A71 型及びパレコウイルスが 2 例 2 件、コクサッキー

ウイルス B3 型、エコーウイルス 18 型及びアデノウイルス 54 型が 1 例 2 件、アデノウイルス 41 型、ヒトパルボウイルス B19 及びムンプスウイルスがそれぞれ 1 件であった。このうち同一検体からヒトヘルペスウイルス 7 と EB ウイルスの重複検出が 2 例 2 検体、サイトメガロウイルスとライノウイルスの重複検出が 1 検体であった。また、コクサッキーウイルス B4 型が検出された検体のうち 1 検体はヒトヘルペスウイルス 7 と、1 検体はヒトヘルペスウイルス 6 と、1 検体はアデノウイルス 41 型と、1 検体はアデノウイルス 54 型と重複して検出された。また、複数の検体が採取された症例のうち 3 例で、検体ごとに異なるウイルスが検出された。

表Ⅱ-1-21 月別五類ウイルス検出状況(定点把握対象 2018年)

平成31年 3月31日現在

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数												累計 640	その他のウイルス
		1月 21	2月 32	3月 41	4月 34	5月 46	6月 67	7月 60	8月 80	9月 90	10月 60	11月 57	12月 39		
RSウイルス 感染症	検体数	6	2	6	4	2	6	6	7	12	13	4	5	73	ヒトメタニューモ(3), パラインフル エンザ 3(5), パラインフルエンザ 4(1), コロナ(2), アデノ 1(1), ア デノ 2(1), アデノ nt(1), ライノ (2)
	RS	5	2	5	3		3	4	7	12	8	4	4	57	
咽頭結膜熱	検体数	1	2	4	2	10	10	11	5	5	9	14	5	78	コクサッキー A2(1), コクサッキー A6(1), コクサッキー B4(1), パライ ンフルエンザ 3(1)
	アデノ 1					4	2	2	1				9		
	アデノ 2			2	1	5	7	6			1		1	23	
	アデノ 3									2	7	13	3	25	
感染性胃腸炎	検体数	7	7	16	5	12	17	10	11	12	7	15	10	129	アデノ 1(4), アデノ 2(4), アデノ 3(1), アデノ 5(1), アデノ 31(1), コクサッキー B4(1), コクサッキー B5(1), エコー 18(1), パレコ(5), ライノ(5), ヒトヘルペス7(1)
	ノロ	3	4	7	1	2	4				1	4	4	30	
	サボ	1				1	2		1	1			2	8	
	アストロ				1				1			1	2	6	
	ロタ (A)			1	1									2	
水痘	検体数		2	1										3	
	水痘帯状疱疹		2	1										3	
手足口病	検体数				1	4	11	11	13	12	10	5	4	71	コクサッキー B4(1), ライノ(6), ア デノ 1(2), サイトメガロ(2), ヒト ヘルペス7(1), パラインフルエンザ 3(1)
	コクサッキー A4							1	1					2	
	コクサッキー A5											1		1	
	コクサッキー A6												1	1	
	コクサッキー A9								2	1	2			5	
	コクサッキー A16					1	3	4	2	3	4	3	3	23	
	エンテロ A71				1	2	6	3	6	4	1			23	
伝染性紅斑	検体数				1	1	1	1	1					3	
	ヒトバルボ B19				1	1	1	1	1					3	
突発性発しん	検体数		2		1	1	2	1	1			1	1	10	サイトメガロ(1), ライノ(1)
	ヒトヘルペス 6		1		1				1			1		4	
	ヒトヘルペス 7								1					1	
ヘルパンギーナ	検体数		1				10	11	2	3	3	1	1	32	コクサッキー B2(1), ライノ(2), ア デノ 2(1), 単純ヘルペス 1(2)
	コクサッキー A2						1	1		2				4	
	コクサッキー A4						6	7			2			15	
	コクサッキー A5											1		1	
	コクサッキー A16								1		1			2	
	エンテロ A71						1							1	
流行性耳下腺炎	検体数				2	1								3	
	ムンプス				2	1								3	
流行性角結膜炎	検体数				2	3	5	1	1	3		1		16	
	アデノ 53					1								1	
	アデノ 54				2	2	4		1	3				12	
	アデノ 56						1	1						2	
	アデノ 64											1		1	
無菌性髄膜炎	検体数	7	16	14	16	13	22	35	39	13	18	16	13	222	
	コクサッキー B2								5					5	
	コクサッキー B3									1	1			2	
	コクサッキー B4					3	2	12	9	2		1		29	
	エコー 11								2			2		4	
	エコー 18						2							2	
	エコー 25							2	2					4	
	エンテロ A71					1		1						2	
	パレコ								1			1		2	
	ライノ		1			1							3	5	
	アデノ 41						1							1	
	アデノ 54								2					2	
	アデノ NT								1					1	
	EB	1		2						1			1	5	
	サイトメガロ		2				2			1				5	
	ヒトヘルペス 6						4						1	5	
ヒトヘルペス 7	1		2						1		2		7		
ヒトバルボ B19							1						1		
ムンプス	1												1		